
幻想を見た少女の涙。

だらぼの

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想を見た少女の涙。

【Nコード】

N0448Z

【作者名】

だらぼの

【あらすじ】

聖なる夜の日、私は事故で死にました 漫画のような死に方でこの世を去った少女。これは死んだ少女が見た幻想話。ただの自己満足作品ですので、温かい目で見てください。

ブログ：事故

小さい頃、私は事故に遭ってしまいました。

子猫が車道に飛び出し、助けようとしただけなのです。

黒く、大型車なのを覚えています。

世界が灰色になると、車から人が出てきました。若い男です。

男は私を見ると、悲鳴をあげ、そして　　車を走らせ、逃げてしまいました。

残された私は、痛みを感じながら、灰色の世界の中に埋まってしまいました。

12月25日。聖なる夜のことでした。

そして、私は死んでしまいました。

あの時はまだ、17歳でした。

1 話目：赤ん坊

気がつくと、そこは真っ白なベッドの上だった。

家具も白、服も白、壁はもちろん白。

誰の部屋か分らない。・・・誰の部屋？

ベッドから出て、辺りを見回す。

暖かい毛布に包まっていたせいか、床が酷く冷たく感じられる。

扉を開けようとすると、ノックの音がした。

きつと、部屋の主だろう。

私がいるから寝れなかったんだろう。申し訳ないことをした・・・。

謝つといたほうが良いだろうか。

私はそう思い、扉を開ける。

「！！？」

扉を開けたとき、驚いた。

目の前には小さな赤ん坊がいたのだが、その赤ん坊は顔を隠すようにフードを被り、何食わぬ顔で部屋に入ってきたのだから。

入ってきた赤ん坊は、机から何かを取り出し、私の手に置いた。

ストラップの兎と猫だった。

「????？」

私が疑問を抱えた顔をしていると、赤ん坊は答える。

「君が忘れてたもの。返しに来たよ」

赤ん坊はそう言い、付け足す。

「金はもらうからね」

『ありがとう』

そう言おうとした。が、

声が出なかった。

「?????」

「どうしたんだい？」

質問されても、答えようがない。

私は静かに首を横に振る。

「・・・そう」

そして、赤ん坊は去っていった。

私は部屋のあらゆる引き出しを開け、紙がないかと探す。

「・・・」

あつた。

中に数枚絵が描いてある。

上手とは言えないが、丁寧に描いてある。

私は絵を千切り、スケッチブックを持って部屋を出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0448z/>

幻想を見た少女の涙。

2011年12月1日21時00分発行